



陵雲だより

学び合う子供の育成～道徳性を養いながら～

保護者・地域の御理解と御協力に心から感謝申し上げます

校長 佐藤聖士

＜突然のヒグマ足跡情報＞

11月21日（金）午前、校区隣接校よりもたらされた市街地のヒグマ足跡情報。その後、関係機関の確認を受け「若い個体と推測される」という情報提供を受け、北部地区の小中学校が連携し、下校時のお迎えをお願いしました。先月の学校だよりで、緊急時の送迎登下校の練習についてお伝えしたところですが、児童の安全確保と交通渋滞を防ぐべく、今回、特別にグラウンドへの車両の乗り入れ、ドライブスルー方式でのお迎えを願いました。おかげさまで、安全かつ整然と下校できましたことに心より感謝申し上げます。災害は、いつやってくるかわかりません。学校での対応には限りがありますが、最大限の工夫をしながら、今回の経験を糧として、安全かつ効率的な策を講じてまいります。（グラウンドに少々凹凸が生じました～来春、運動会に向けた整地作業に御協力をお願いするかもしれません）

＜学校のドングリ不作～道南地方の「ナラ枯れ」＞

学校の前庭に、ドングリのなる木があります。葉の形からアカナラであることが想定されますが、今年は、ほぼ実りませんでした。生活科の学習では素材が少なく、低学年は残念な思いでした。報道されるところでは、山の中でも同様だったようで、ヒグマが市街地に出て来ることの相関は以前から指摘されています。また、温暖化の影響でしょうか、道南地方で「ナラ枯れ」が増加しているとのこと。ナラ類等の樹木に入る虫「カシノナガキクイムシ」が運ぶ病原菌の影響によるようで、ますます山中の実は減り、ヒグマは市街地へ。昨今の旭川の酷暑を考えるとき、温暖化と身近な出来事のつながりを実感するばかりです。

＜専門家のお話から＞

私事ですが、以前から申し込んでいた、絵本作家あべ弘士氏、天売島在住の写真家寺沢孝毅氏、NPO法人もりねっと北海道代表山本牧氏による鼎談会に、22日（土）参加しました。出版された絵本・写真集のエピソードを拝聴したく申し込んでいましたが、前日の出来事を受け、ヒグマの生態や旭川市の現状について、大変示唆に富んだお話を拝聴することができました。お三方のお話に共通していて、当方が感じたことは、“正しくおそれながらも、子どものころから、ヒグマについて学ぶ機会を増やす必要がある”ということでした。

前庭で、ときどきエゾリスを目にします。今年はドングリがほとんどありませんので、なんだか申し訳ない気持ちで観察しています。自然界に無駄なものは何一つなく生態系はまさにバランス。今回の出来事から、北海道の野生生物や自然環境について学びを深める必要があることを痛感しました。

時を同じくしてインフルエンザが流行しており、本校も過半数の学級で閉鎖の措置をとりました。り患された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。今後も諸々の未然防止に努めながら、事にあたっては適切な対応に努めてまいります。今後とも御理解と御協力の程宜しくお願ひいたします～深謝。

1年生と幼・保交流学習 「あきまつり」

11月20日（木）、1年生の生活科の学習として、幼稚園・保育園の園児のみなさんを招いて交流学習「あきまつり」を開催しました。今年度は7園139名の園児が来校し、体育館いっぱいに笑顔と歓声が広がる、にぎやかな時間となりました。

1年生は、これまで生活科の学習の中で、友達と相談しながら遊びのコーナーを考え、準備を進めてきました。こま・けん玉・さかなつり・ボーリング・めいろ・くじびき・やじろべえ・工作コーナーなど、工夫いっぱいの「あそびの広場」が完成し、当日はお兄さん・お姉さんとして園児のみなさんをやさしく迎える姿が見られました。

「こっちだよ」「やってみてね」と声をかけたり、やり方を丁寧に教えたりしながら、一緒に遊ぶ姿はとても微笑ましく、1年生の成長を感じる場面となりました。園児のみなさんも、安心した表情で楽しそうに遊ぶ様子が印象的でした。

交流を通して、相手のことを考えて行動することや、伝えることの大切さを学ぶ貴重な機会となりました。御参加いただいた各園の皆さん、御協力ありがとうございました。



「川村力子トアイヌ記念館」の見学(4年生)

11月5日（水）、4年生がバスに乗り、「川村力子トアイヌ記念館」を見学に行きました。記念館では、職員の方から、昔のアイヌの人々の考え方や暮らしの様子について分かりやすく説明していただきました。

また、アイヌの生活に使われていたさまざまな道具を実際に見ることで、当時の暮らしや文化への理解を深める貴重な機会となりました。子供たちは、真剣な表情で話を聞きながら、興味深そうに展示を見学していました。

今後は、今回の見学で学んだことを社会科の学習や調べ学習に生かし、アイヌの人々の文化や歴史について理解を深めながら、多様な文化を尊重する心を育んでいきたいと考えています。

